

えひめ新事業創出人材育成講座成果報告書

成果報告書記載内容

1. えひめ新事業創出人材育成講座実施検討委員会

事務局への助言等を行う組織として、本学の事業担当者と協力機関の担当者を中心に編成した「えひめ新事業創出人材育成講座実施検討委員会」を設置した。検討委員会のメンバーは、委員長に村田武（愛媛大学社会連携推進機構教授）、副委員長に鶴見武道（愛媛大学農学部農山漁村地域マネジメント特別コース客員教授）を据え、本学教員、連携自治体である愛媛県、宇和島市、宇和海水産構想において人材育成を担当する宇和島商工会議所、協力機関である㈱愛媛銀行、㈱三菱総合研究所の担当で構成した。

同委員会は、平成24年8月22日開催の第1回委員会で、事業の計画、スケジュール、受講者の確保と選考について協議した。同12月14日開催の第2回委員会では、①科目A・Bの終了報告を受け、科目C・Dの進捗状況、科目A・Bのアンケート結果について協議するとともに、②農林水産省の中間検査について報告を受けた。さらに、平成25年2月3日の第3回委員会では、科目C・Dの終了報告を受け、受講生の終了状況とともに、ビジネスプランコンテスト東京大会への出場者を確認した。

検討委員会では、平成22～23年度事業の実施主体である㈱三菱総合研究所の研究員から、プログラム運営に対する総合的・実践的な助言を得ることができたことは大きかった。

また、平成25年度から4年間開催予定の「水産イノベーションスキル修得講座」の開講、運営及び管理等について、ノウハウを得ることができた。

- ・委員長 愛媛大学社会連携推進機構 教授 村田 武
- ・副委員長 愛媛大学南予水産研究センター客員教授 鶴見 武道
- ・委員 愛媛大学南予水産研究センター長 山内 皓平
- 愛媛県南予地方局産業経済部産業振興課長 鶴村 幸弘
- 宇和島市総務部企画情報課長 竹葉 幸司
- 宇和島商工会議所青年部会長 山口 一峰
- 株式会社愛媛銀行感性価値創造推進室長 大内 通
- 株式会社三菱総合研究所経営コンサルティング本部
人材戦略グループ主任研究員 岡田 圭太

・開催（日時、場所、内容、出席者）

日 時：平成24年8月22日 10時30分～12時

場 所：宇和島市役所 A棟会議室

内 容：①本事業の計画 ②本事業のスケジュール ③受講者の確保
④受講者の選考

出席者：村田委員長、鶴見副委員長、山内委員、鶴村委員、竹葉委員
山口委員（代理：森川）、大内委員、岡田委員（代理：高谷）

日 時：平成24年12月14日 14時～15時30分

場 所：宇和島市役所 A棟会議室

内 容：①科目A・Bの終了報告と科目C・Dの進捗状況及び科目A・Bの

- アンケート結果 ②農林水産省の中間検査
③科目D発表会における審査員及び審査方法
④早稲田総研の提案

出席者：村田委員長、鶴見副委員長、山内委員、鶴村委員、竹葉委員
山口委員（代理：森川）、大内委員（代理：中村）、岡田委員

日時：平成25年2月3日 16時～16時20分

場所：宇和島市立南予文化会館産業振興センター

内容：①科目C・Dの終了報告 ②受講生の修了状況
③ビジネスプランコンテスト東京大会への出場者
④水産イノベーション人材育成セミナー4

出席者：村田委員長、鶴見副委員長、山内委員、鶴村委員、竹葉委員
山口委員、大内委員、岡田委員

2. プログラムの改良

講座プログラムについては、講座を実施する愛媛県、とくに南予地域の産業構造の特性を踏まえ、水産業に関する講義を取り入れて再構成した。また、科目の開講順序について、受講生の好奇心を引き出すために実践的な科目3「6次産業化実践論」からの開講とした。

その結果、水産業に関する講義を取り入れ、地域にあったカリキュラムの提供ができたとともに6次産業化実践論については、申込受講者数が39名、うち修了者数が31名となり、実践的な科目による人材育成の必要性や重要性が実証できた。

・改良内容

1) 講義内容の変更点

地域特性を踏まえ、水産業に関する講義を取り入れて再構成

①科目1(8)(9)

「フードシステム論Ⅰ（基礎編）」、「フードシステム論Ⅱ（動向編）」
→「フードシステム論Ⅰ（農産物編）」、「フードシステム論Ⅱ（水産物編）」に変更。

【理由】地域特性、受講者などを考慮して、水産物の生産・流通・消費動向に関する内容を取り入れる必要性が高いため。

②科目2(1)

「農業経営と企業経営」
→「農山漁村におけるコミュニティ・ビジネスの展開」に変更。

【理由】中山間地域が多く、過疎化が進行する四国地方の実情を踏まえて、小規模経営や集落維持の在り方を考える必要性が高いため。

③科目2(8)(9)

「食のマーケティングⅡ（STP）」、「食のマーケティングⅢ（マーケティングミックス）」

→「食のマーケティングⅡ（STPとマーケティングミックス）」と「食のマーケ

ティングⅢ（地域ブランド）」に変更。

【理由】過去2年の担当経験から、地域ブランドに関する知識が必要であると実感しているため。

④科目3（14）（15）

「食品系の6次産業化実践論」、「非食品の6次産業化実践論Ⅱ」

→食品系では水産業に、非食品では観光に特化した内容に変更。

【理由】地域、受講者の特性を踏まえて、水産業と漁家民宿にかかわる実践論に関する内容を取り入れる必要性が高いため。

2) 科目順序の変更点

受講生の好奇心を引き出すため、実践的な科目から受講するように変更

科目1 → 科目2 → 科目3 → 科目4
1・2・3次産業基本論 経営・マーケティング基本論 6次産業化実践論 新事業創出実践論



科目3 → 科目1 → 科目2 → 科目4
6次産業化実践論 1・2・3次産業基本論 経営・マーケティング基本論 新事業創出実践論

・著作権の取扱い

各担当講師に帰属する。

3. 講座の開催

受講者の募集を平成24年8月1日から9月7日の間に行った。募集方法は、宇和島市を初め、関係市町の広報誌や募集チラシ等を利用して、次のとおり実施した。

① 宇和海水産構想推進協議会会員に受講生の開拓と受講奨励を要請した。特に会員である6市町に関して、自治体広報誌への募集案内を掲載した。

② 南予地域の農業協同組合・漁業協同組合の女性部などに、6次産業化を意識した具体的な動きがあるため、このメンバーに講座への参加を呼び掛けた。

③ 後援団体である愛媛県に対し、南予地域、中予地域（松山市など）の普及指導員等への受講奨励を要請した。

募集定員は36名であったが、申込者数は、科目A39人、科目B34人、科目C27人、科目D27人であった。募集定員に関して、計画したほどの申し込みがなかったのは、9月～翌年2月までの毎月土日に1回～2回開催することとしたためと考えられることから、開催月や開催曜日、1ヶ月の開催回数などを検討する必要があることがわかった。

（受講生の概要は別紙の通り。）

・受講者募集（募集期間、募集方法、募集チラシ、募集チラシ配布先等）

募集期間：平成24年8月1日（水）～平成24年9月7日（金）

募集方法：宇和島市・八幡浜市・西予市・伊方町・愛南町・宿毛市の広報誌
募集チラシの配布、『週刊愛媛経済レポート』への掲載

募集チラシ：300部印刷

募集チラシ配布先等：愛媛県、愛媛県南予地方局、宇和島市、八幡浜市、西予市、伊方町、愛南町、宿毛市、宇和海水産構想推進協議会会員（62組織）

宇和島市、八幡浜市及び愛南町を会場とし、会場については、設備や遠方からの講師、受講者の交通の便等を勘案して選定した。

講義担当者は、科目Aは(株)三菱総合研究所研究員、科目Bは本学教員、科目Cは本学教員と(株)三菱総合研究所研究員、科目Dは本学教職員と6次産業化プランナーが中心となり、必要に応じて外部の講師を招聘した。

プログラムを進めるにあたっては、講義だけでなく、ディスカッションやグループワークなど受講者が主体的に取り組むことができる手法を積極的に取り入れ、受講者の理解が深まるよう工夫をした。なお、科目A～Dのすべての回について事務局の伊藤地域連携職員がサポートを行い、グループワークの際には伊藤を始め、本学教職員がファシリテーター役を務めた。

また、講義終了後に交流会を開催し、受講者間、受講者・講師間のコミュニケーションを図る機会を複数回設けた。

講座の見学については、事前申し込みの許可制とし、報道各社、自治体関係者などの見学者を受け入れた。一部の講義については内容を考慮して、広く一般に開放した。

その結果、ニーズのある地域で開講することができ、講義だけでなく、ディスカッションやグループワークなどを実施することにより、受講者が主体的に取り組むことができた。また、受講者間、受講者・講師間のコミュニケーションを図ることが可能となり、受講生同士のネットワーク構築が進み、実践に向けて動き始めたメンバーができた。

事業の課題として、①受講生によっては好きな講義のみ出席したこと、②開催場所を特定の一カ所にしてほしいこと、③実際に販売するなどの実践に近い講座やサポートをしてほしいことなどの要望等があった。この経験を平成25年度から開催予定の「水産イノベーションスキル修得講座」に生かすことができる。

科目A（6次産業化実践論）を、宇和島市役所地下会議室を会場に、9月29・30日、10月13・14日に開催し、受講者数は39名、うち修了者数は31名であった。

科目B（1・2・3次産業基本論）を、八幡浜市役所大会議室を会場に、11月10・11・17・18日に開催し、受講者数は34名、うち修了者数は25名であった。

科目C（経営・マーケティング基本論）を、愛南町城辺公民館（12月1・2日）とJAえひめ南本所5階ホールで開催し、受講者数は27名、うち修了者数は15名であった。

科目D（新事業創出実践論）を宇和島市立南予文化会館産業振興センターを会場に、平成25年1月26・27日、2月2・3日に開催した。受講者数は27名、うち修了者数は13名であった。

・講座（日時、場所、内容、講師、受講者数^注、評価、フォローアップ等）

○科目A 6次産業化実践論

日時：平成24年9月29日・30日及び平成24年10月13日・14日

場所：宇和島市役所地下会議室

| 内容 | 講師 |
|--------------------------|------------------------------------|
| ・行政機関における6次産業化の支援施策と支援機関 | ・中国四国農政局松山地域センター 総括農政業務管理官 近藤卓幸 |
| ・連携型6次産業化事例Ⅰ | ・越智今治農業協同組合 西坂文秀 |
| ・連携型6次産業化事例Ⅱ | ・(株)四万十ドラマ 畦地履正 |
| ・コミュニケーション手法 | ・宇都宮大学 佐々木英和 |
| ・6次産業化の必要性和展開パターン | ・(株)三菱総合研究所 池田佳代子 |
| ・ケースメソッドの実施方法の解説 | ・(株)三菱総合研究所 岡田圭太 |
| ・融合型6次産業化事例 | ・(株)高田商店 高田哲也 |
| ・ケースメソッド・ケースⅠのグループワーク | ・(株)三菱総合研究所 池田佳代子 |
| ・ケースメソッド・ケースⅠの解説 | ・(株)三菱総合研究所 池田佳代子 |
| ・ケースメソッド・ケースⅡのグループワーク | ・(株)三菱総合研究所 岡田圭太 |
| ・ケースメソッド・ケースⅠの解説 | ・(株)三菱総合研究所 岡田圭太 |
| ・輸出型6次産業化事例とそのポイント | ・いよぎん地域経済研究センター 新藤博之 |
| ・海外6次産業化事例 | 同上 |
| ・非食品系の6次産業化実践論 | ・漁家民宿海人 前田アイ子 |
| ・食品系の6次産業化実践論 | ・鹿児島県漁業協同組合連合会 宮内和一郎 |

受講者数：39名（内 修了者数31名）

評価：良（詳細は別紙「科目Aアンケート結果」のとおり）

フォローアップ等：平成25年度に開催を予定している「水産イノベーションスキル修得講座」の受講を奨励した。

○科目B 1・2・3次産業基本論

日時：平成24年11月10日・11日・17日・18日

場所：八幡浜市役所大会議室

| 内容 | 講師 |
|--------------------------|-------------------------|
| ・農林水産業の現状と地域産業振興Ⅱ（水産業） | ・愛媛大学南予水産研究センター 山内皓平 |
| ・食品開発における栄養と機能 | ・愛媛大学農学部 菅原卓也 |
| ・食品加工における安全・衛生管理／関連法規 | ・愛媛大学農学部 垣原登志子 |
| ・食品加工論Ⅰ | ・東京海洋大学 岡崎恵美子 |
| ・食品加工論Ⅱ | ・愛媛県産業技術研究所 大野一仁 |
| ・農林水産業の現状と地域産業振興Ⅰ（農業・林業） | ・愛媛大学社会連携推進機構 村田武 |
| ・農村漁村の特性と新事業創出 | ・愛媛大学 村田武 |
| ・フードシステム論Ⅰ（農産物） | ・愛媛大学農学部 板橋衛 |
| ・フードシステム論Ⅱ（水産物） | ・愛媛大学農学部 竹ノ内徳人 |

- ・フードコーディネーター論Ⅰ(理論編)・ホテル椿館 近藤國繁
- ・フードコーディネーター論Ⅱ(理論編)・(有)エルフィン・インターナショナル 天野洋子
- ・加工品生産実習
- ・農場視察実習
- ・物質・エネルギー利用型地域資源利用論
- ・サービス提供型地域資源利用論
- ・八幡浜市水産港湾課 滝本 真一
- ・(株)ニューズ 門田治満
- ・愛媛大学南予水産研究センター 鶴見武道
- ・愛媛大学農学部 笠松浩樹

受講者数：34名(内 修了者数25名)

評価：良(詳細は別紙「科目Bアンケート結果」のとおり)

フォローアップ等：平成25年度に開催を予定している「水産イノベーションスキル修得講座」の受講を奨励した。

○科目C 経営・マーケティング基本論

日時：平成24年12月1日・2日・15日・16日

場所：愛南町城辺公民館・JAえひめ南本所5階ホール

- | 内容 | 講師 |
|----------------------------------|----------------------|
| ・農村漁村におけるコミュニティ・ビジネスの展開 | ・愛媛大学農学部 笠松浩樹 |
| ・地域活性化に向けた新事業創出 | ・愛媛大学農学部 笠松浩樹 |
| ・食のマーケティングⅢ (地域ブランド論) | ・愛媛大学法文学部 大谷尚之 |
| ・財務会計Ⅰ | ・(株)愛媛銀行 清水豊誠 |
| ・財務会計Ⅱ | ・(株)愛媛銀行 清水豊誠 |
| ・商品開発実務Ⅰ | ・(株)みかん職人武田屋 武田敦年 |
| ・商品開発実務Ⅱ | ・東京海洋大学 大迫一史 |
| ・経営理念／組織・経営者論 | ・(株)三菱総合研究所 佐々木康浩 |
| ・組織経営と地域ネットワーク形成 | ・(株)三菱総合研究所 佐々木康浩 |
| ・経営戦略 | ・(株)三菱総合研究所 岡田圭太 |
| ・経営理念とその浸透 | ・(株)三菱総合研究所 岡田圭太 |
| ・食のマーケティングⅠ (市場環境分析) | ・愛媛大学法文学部 大谷尚之 |
| ・食のマーケティングⅡ (STPとマーケティングミックス) | ・愛媛大学法文学部 大谷尚之 |
| ・食に関する経営情報戦略 | ・愛媛大学南予水産研究センター 天野通子 |
| ・6次産業化知財管理 | ・愛媛大学知的財産センター 関根康男 |

受講者数：27名(内 修了者数15名)

評価：良(詳細は別紙「科目Cアンケート結果」のとおり)

フォローアップ等：平成25年度に開催を予定している「水産イノベーションスキル修得講座」の受講を奨励した。

○科目D 新事業創出実践論

日時：平成25年1月26日・27日及び平成25年2月2日・3日

場所：宇和島市立南予文化会館産業振興センター

| 内容 | 講師 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営理念の策定 ・ 製品・サービスの設計 ・ 事業環境の分析 ・ プレゼンテーション手法 ・ 6次産業化ビジネスの構想 ・ 事業内容と事業目標の設定Ⅰ ・ 事業内容と事業目標の設定Ⅱ ・ マーケティングの手法 ・ マーケティングの検討 ・ 収支計画の策定手法 ・ 収支計画の策定 ・ ビジネスプランのリスクチェックと実践方法及び全体調整 ・ ビジネスプランのグループ内分析 ・ ビジネスプランの発表会Ⅰ ・ ビジネスプランの発表会Ⅱ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 愛媛大学南予水産研究センター 鶴見武道 ・ 和田経営相談事務所 和田健一 ・ 和田経営相談事務所 和田健一 ・ 宇都宮大学 佐々木英和 ・ 宇都宮大学 佐々木英和 ・ 和田経営相談事務所 和田健一 ・ 和田経営相談事務所 和田健一 ・ 愛媛大学法文学部 大谷尚之 ・ 愛媛大学法文学部 大谷尚之 ・ (株)愛媛銀行 大内通 ・ (株)愛媛銀行 大内通 ・ 愛媛大学法文学部 大谷尚之 ・ 愛媛大学農学部 笠松浩樹 ・ 愛媛大学 村田武 ・ 愛媛大学 村田武 |
| <p>受講者数：27名（内 修了者13名）</p> | |
| <p>評価：良（詳細は別紙「科目Dアンケート結果」のとおり）</p> | |
| <p>フォローアップ等：平成25年度に開催を予定している「水産イノベーションスキル修得講座」の受講を奨励した。</p> | |
| <p>4 成果報告会</p> | |
| <p>平成25年2月3日に、科目Dと同会場で、「科目D受講生によるビジネスプラン発表会」を内容とする成果報告会を開催した。3つのグループによる発表を受け、審査の結果、グループB（(株)たいあっぷの「塩釜で祝鯛」）が最優秀となった。成果報告会の出席者は、審査員9名の他、受講生13名、見学者12名（他科目受講生や宇和島市長など）であった。</p> | |
| <p>なお、成果報告会を実施するにあたっては、プレスリリース等で地元メディアに広く周知し、取材の要請を行った。</p> | |
| <p>さらに、科目Dの最優秀チームは、「成果報告会（(株)三菱総合研究所が平成25年3月に東京で開催）」に出場し、プログラムの成果を全国に披露した。</p> | |
| <p>また、この機会を利用し、全国から集まる関係者に対して、事務局よりプログラム全体の成果報告を行った。</p> | |
| <p>「愛媛新聞」（平成25年2月5日（火））に「新事業プラン発表」と記載された記事と写真が掲載され、農林水産業の6次産業化人材育成事業をPRすることができた。（別紙の通り）</p> | |
| <p>・ 報告会（日時、場所、内容、出席者数（業種）等）</p> | |
| <p>日 時：平成25年2月3日（日） 13：30～16：00</p> | |
| <p>場 所：宇和島市立南予文化会館 産業振興センター</p> | |
| <p>内 容：科目D受講生によるビジネスプラン発表</p> | |
| <p>グループ1</p> | |

グループ名：企業組合 愛なんよ

タイトル：「愛ある食材！愛ある食卓それが愛なんよ」

提案事業：農林水産業者と消費者とを直接つなぐ事で、都市部への販路を創出し、農林水産業者の収入向上及び家族や知人と安全・安心な食を味わう機会を提供することで、乾いた生活に潤いを与え、「家族や友人の絆」や楽しさを再認識して頂く。さらに、農水産物の生産現場での体験を提供することにもつなげ、南予地域の活性化につなげる。

グループ2 <優賞>

グループ名：(株) たいあっぷ

タイトル：「塩釜で祝鯛」

提案事業：匠の技術と豊かな宇和島の海で育まれた「伊達真鯛」を介して養殖鯛のよさを広く伝え、感動を提供します。祝い事に欠かせない魚として定着させることで、売上目標1億円を達成し、地域の活性化と家族の絆づくりに貢献する。

グループ3

グループ名：日本地にぎり商会

タイトル：「地にぎり普及プロジェクト」

提案事業：全国各地の地元の旬で珍な食材を使用した「地にぎり」（おにぎり）を通じて、その地域の食文化を全国に発信し、日本を元気にする。

（ビジネスプラン審査結果は別紙の通り）

出席者数（業種）等：受講生 13名

審査員 9名

見学者 12名（他科目受講生、宇和島市長他）

・成果報告会（募集期間、募集方法、案内チラシ、案内送付先等）

開催日：平成25年3月8日 13:30～16:55

募集期間：平成25年2月1日～3月8日

募集方法：■農林水産省ご担当者（藤田様）経由にて、今年度事業実施ご担当者にご連絡

■昨年度事業実施ご担当者へご連絡

■プラチナ社会研究会「食の高付加価値化分科会」（3/1開催）にてご案内

■（株）三菱総合研究所ホームページでのご案内

http://www.mri.co.jp/NEWS/press/2013/2044612_2312.html

案内チラシ：別紙の通り

案内送付先：募集方法の記載先に送付